

地域連携センター報

REGIONAL COLLABORATION CENTER

Vol. 40

令和6年3月発行

県立広島大学

Prefectural University of Hiroshima



Mihara



第21回広島保健福祉学会学術大会を開催しました

12月16日に「第21回広島保健福祉学会学術大会—ストーリーの共有が生み出す対話と連携—」を開催しました。前回、第20回大会はオンラインでの開催でしたが、今回は平成30年の第19回大会以来の三原キャンパスでの対面開催となりました。

今回の大会で重要なキーワードとなるのが「プレイバックシアター（即興劇）」です。

～プレイバックシアター（即興劇）とは？～

語り手（テラー）が日常における自らの経験を語り、その話を即興で演技手（アクター）らが演じる10分程度の即興劇です。

テラーは自らを客観的に振り返ることができ、アクターは他者の立場に立つことができ、観客は他者のストーリーを知ることによって、自らのストーリーを呼び起こし、個人のストーリーが様々な人々のつながりを広げてゆく即興劇です。保健・医療・福祉・教育等の様々な分野で活用されています。

午前の第1部「プレイバックシアターワークショップ」では、本学保健福祉学部教員3名と参加者で実施しました。前半は即興劇に入る前の準備段階として、参加者同士の交流を図りつつ、演じるための準備運動として体を使ったオリエンテーションを実施しました。後半はプレイバックシアター実践に入り、参加者から語り手（テラー）、演技手（アクター）、劇中の音楽担当（ミュージシャン）の3役を募り、語り手のストーリーを即興で演じました。今回がプレイバックシ

アター初体験の参加者から「日常では体を使って感情を表現することは無いので、最初はとまどったが、貴重な経験ができた。」とのお声をいただきました。



〈プレイバックシアターワークショップ〉

午後からの第2部では、本学保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース教授である吉川ひろみ大会長からの開会挨拶ののちに「プレイバックシアター公演」、「基調講演」、「一般演題（ポスター発表）」が行われました。

「プレイバックシアター公演」では、本学保健福祉学部教員を中心に結成された“劇団しましま”による公演を実施しました。

基調講演者のスクール・オブ・プレイバックシアター日本校の副校長である小森亜紀先生がコンダクター（案内人）を務め、聴講者から語り手を募り、語られたストーリーを“劇団しましま”が即興で演じ、参加

者全員で個人のストーリーを共有しました。

語り手を体験した参加者からは「自分の体験を客観的に見ることができ、その時には気づけなかった他者の気持ちを見直すきっかけができた。」、また、聴講者からは「演じ手がストーリーを見事に再現され、一緒に体感している気持ちになった。」とのお声をいただきました。



〈劇団しましま プレイバックシアター公演〉

「基調講演」は、講師に小森先生をお招きし、『パーソナルストーリーの力』をテーマに、講演いただきました。

パーソナルストーリーとは、主観的な真実が含まれる個人の体験の話であり、語り手の気持ちが反映されたものであること、それを他者と共有することができる手法の一つに「プレイバックシアター」があるとの説明がありました。また、新型コロナウイルスによるパンデミック中の2020年には「リスニングアワー」というオンライン・少人数制でストーリーを語ってゆーくだけというコンパクトな手法も生まれたとの報告がありました。

「プレイバックシアター」や「リスニングアワー」は、意見を求めたり、問題解決を探したりすることはなく、ストーリーを共有することだけを目的としていること、そのような場所でパーソナルストーリーを語ることで自身に新たな気づき生まれ、他者のストーリーを聞くことで自身のストーリーが呼び起こされ、ストーリー同士がつながりあっていくことで、その場

にいる人々がつながりを深めたり、視野を広げたりすることに役立つと述べられました。

最後の質疑応答では、プレイバックシアターを福祉や治療の現場で実践的に活用する方法等についての質問が複数寄せられ、小森先生には一つ一つ丁寧にお答えいただきました。



〈基調講演 小森 亜紀 先生〉

「一般演題発表」では、ポスター発表形式で9演題が発表されました。プレイバックシアターを活用した授業の実例や対話と連携の重要性についての研究が報告され、参加者はそれぞれの発表について質問やコメントを行い、理解を深めました。



〈一般演題発表（ポスター発表）〉

最後に金子努三原地域連携センター長から挨拶が述べられ、会場から盛大な拍手に包まれる中、本大会は幕を閉じました。

「第32回トライアスロンさぎしま大会」へのボランティア活動報告

8月20日に三原市鷺浦町にて開催された表題イベントに保健福祉学部の学生8名が参加しました。



本大会は平成2年(1990年)に始まり、第31回大会はコロナ禍により中止を余儀なくされましたが、34年間にわたり島民の方を中心に実行委員会を立ち上げ、競技環境の整備のために、島中が協力し、運営をされてきた大会です。

新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりの開催となった本大会で、佐木島の方々と共に本学学生が競技環境の整備や選手の応援を行いました。

学生達は出場選手の受付作業、スイム競技からバイク競技に移る際のトランジションエリア(着替え・用具変更区間)内の整備、バイクスタート地点周辺の海砂掃き出し作業等の競技環境の整備に汗を流しました。また、給水場所等で拍手や声援を送り、競技に奮闘する選手を激励し、大会終了後は会場周辺の清掃活動を行いました。

4年ぶりに復活した本大会を佐木島の方々と学生が共に汗を流し、真夏の過酷なレースで奮闘する選手をボランティア活動で支えました。



「ファミリーフットサル&JFA フットサルフェスティバル 2023in 安佐北スポーツセンター」イベントへのボランティア活動報告

11月5日に開催された表題イベントに保健福祉学部包括協定先であるNPO法人中国フットサルプロモーションからの依頼を受け、本学部学生14名が参加しました。

午前の部は広島市スポーツ協会が主催の「ファミリーフットサル」でした。フットサルに関心がある小学生とその保護者を対象とし、体力向上や親子交流などを目的としたもので具体的にはトップリーグで活躍中の広島エフ・ドゥ選手(以下、選手)による直接指導やサイン会が行われ、学生は会場設営や選手のアシスタントなどに従事しました。また午後の部は広島県サッカー協会が主催の「フットサルフェスティバル」が行われ、初心者を含めたフットサル競技者を対象としたフットサル技術の向上とウォーキングフットボール(以下、WF)体験を目的としたものでした。具体的には選手による技術指導やゲーム体験、そして年齢や性別、サッカーのスキル差も気にせず楽しめるWF体験が行われました。学生は午前の部と同様に会場運営補助に従事しましたがWFについては、その体験により障害者スポーツとしても楽しめることを学ぶ良い機会となりました。

今回のボランティアでは、コロナ禍では機会がなかった地域イベントの運営補助や地域参加者との交流を体験することができ、学生にとってはかけがえのない経験になったことと思います。この機会を与えていただいた運営スタッフと選手の皆さまに感謝申し上げます。



公開講座・履修証明プログラム

本年度、三原キャンパスでは公開講座を 23 講座、履修証明プログラムを 2 講座開講しました。

公開講座

	講座名
1	医療福祉職の仕事とは～受験生対象
2	第10回海浜健康講座_概論編と実践編
3	日々の生活をデザインする記録と対話
4	家族支援の実践実技講座
5	アンケート調査を企画し、調査票を作成してみよう！
6	児童福祉の最前線の実践について学ぼう！！
7	インタビューや観察データを基にした質的調査の方法を学ぼう！
8	It's Your Life, It's Your Choice (あなたの人生はあなた次第) ～生と性のハナシ～
9	ヘルス・コミュニケーション入門
10	GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援
11	障害者支援とソーシャルワークの基礎知識
12	認知症について知ろう・考えよう
13	病気と向き合う医療福祉職
14	マタニティセミナー～子育ては妊娠期から～
15	メンタルヘルスの視点から考えるマインドフルネス講座
16	失語症・認知症のある方とより良いコミュニケーションをとるために～言語聴覚士の視点から～
17	創造性を育むプレイバックシアターとリスニングアワー
18	手話言語による面接技術講座
19	女性の健康セミナー～更年期以降を健康美人に過ごす～
20	高齢者に生じるコミュニケーション障害の理解とその支援～言語聴覚士の視点から～
21	高校生と考える「子ども虐待」
22	在宅ケアの仕組みを学び、楽しいマイライフ・マイケアプランを考えよう！
23	医療処置を受ける子どもと家族の小児看護リフレクション講座

履修証明プログラム

	講座名
1	主任介護支援専門員を対象としたスキルアップ講座 「スーパーバイザー・レベルアップ講座」
2	Family Reconstruction Support Program (家族再構成支援プログラム)

編集後記

地域連携センター報第 40 号をお届けします。

本号では学術大会、学生のボランティア活動、公開講座・履修証明プログラムについて紹介しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の制約が緩和され、第 21 回広島保健福祉学会学術大会を無事対面開催することができました。盛会のうちに閉幕することができ、ご協力をいただきました関係各所の皆様に深く感謝申し上げます。

今後も地域の皆様と協働で連携活動を推進してまいりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東 1 丁目 1 番 71 号
電話 (082) 251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地
電話 (0824) 74-1000/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター[本号編集担当]
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号
電話 (0848) 60-1120/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp